

2018年11月22日

平成30年度 資源・環境関連材料部会講演・討論会 開催報告

講演会担当主査 阪本尚孝

- ◎日時 平成30年11月2日(金) 13:00~19:00 (見学会参加の場合は10:30~)
- ◎メインテーマ 「これからの社会を支える『低環境負荷技術』を考える」
- ◎主催 公益社団法人 日本セラミックス協会 資源・環境関連材料部会
- ◎共催 地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター
- ◎協賛 日本化学会、応用物理学会、高分子学会、日本金属学会、化学工学会、土木学会、新化学技術推進協会、産業技術総合研究所東北センターClayteam
- ◎場所 東京都立産業技術研究センター 本部 イノベーションハブ

- ◎主旨 人類は豊かな生活をもとめ、技術の高度化によって様々な製品を作り出してきました。その一方で限りある資源を無尽蔵にあるかのごとく使い続けてきました。現在、これまでを振り返り、継続的な活動に向けた技術に取り組まれている方が増える中、産業への適応を考えることは不可欠です。本講演会は各分野で活躍されている方にご講演頂き、『低環境負荷技術』の一端を学び、新たな社会作りを考えるきっかけを提供するものです。

- ◎内容 10:30~12:00 【見学会】(希望者のみ) 東京都立産業技術研究センター本部
12:00~13:00 昼休み
13:00~13:05 開会の辞 日本セラミックス協会資源・環境関連材料部会長 井須紀文 様
13:05~13:10 挨拶 東京都立産業技術研究センター 理事 長谷川裕夫 様
13:10~13:50 <講演①> 「やかずにつくるセラミックスの現状と挑戦」
(名古屋工業大学 先進セラミックス研究センター 教授 藤 正督 様)
13:50~14:30 <講演②> 「RITEにおけるCO₂分離回収技術および水素製造技術」
(公益財団法人地球環境産業技術研究機構(RITE)
化学研究グループ グループリーダー/無機膜研究センター
センター長 中尾 真一 様)
14:30~14:45 休憩
14:45~15:25 <講演③> 「低環境負荷型セラミックス製造プロセス」
(日本ガイシ(株) 製造技術本部 施設統括部エネルギーセンター 半澤 茂 様)
15:25~15:35 ポスター発表方法について (講演会担当主査 阪本尚孝)
15:35~16:00 ポスター発表ショートプレゼンテーション (@2min)
16:05~17:00 ポスター発表 (10件)
17:00~17:15 優秀ポスター賞発表および表彰
17:30~19:00 意見交換会(技術交流会)

◎参加費（講演予稿集、消費税込み）

日本セラミックス協会、協賛学協会会員	5,000 円
非会員	8,000 円
学生	2,000 円
意見交換会	3,000 円

◎定員 50 名（講師 3 名含む）

◎特徴

- ・マクロなテーマを設定し、講演会講師はバランスを重視して「学」「官」「産」より 1 名ずつ選定。
- ・ポスター発表形式の討論会を併催。
- ・発表担当者の若手研究者（自己申告）の参加費無料。
- ・ポスター発表の概要原稿は、graphic abstract 形式。概要集は 4 色印刷製本。
- ・部会役員を選考による優秀ポスター賞（1 件）を表彰（東京理科大学・吉川晃平 様）。対象者には賞状と意見交換会招待。
- ・参加者数 47 名，ポスター発表件数 10 件

◎開催結果

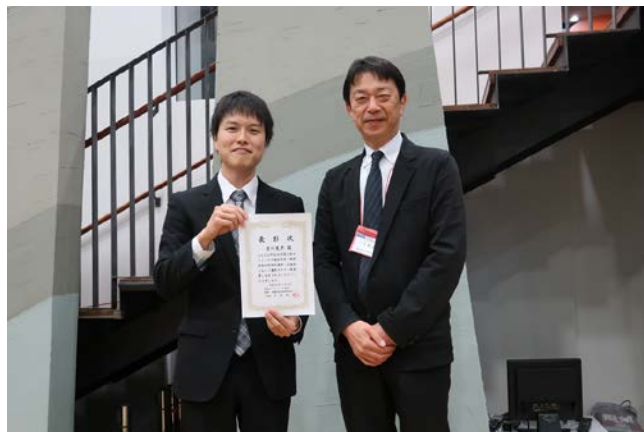
著名な講師で構成した講演会であったこともあり、参加者からは好評で、討論会も含め盛況な会となった。ただし、それぞれの講師の講演自体は別の機会に聴講した経験があるという意見もあり、企業関係者などにとって魅力的な講師を選定することの難しさを認識するとともに、今後の検討課題となった。

アンケートの結果、講演内容への評価は、いずれの講師も大差ない。やや難解な講演として、「低環境負荷型セラミックス製造プロセス」が挙げられる傾向があるものの、参加者に占める学生の割合が大きかったため、実業ベースの内容に馴染みが薄かったものと推定される。この点は、普段聞き慣れないコンテンツという感覚とも見なすことができ、参加者にそのような内容に触れてもらうことを目的のひとつとしている当部会講演会の企画の狙い通りと認識している。

なお、イベント自体の改善提案については、講演会、討論会ともにすべて個別の感想であり、多数の一致した内容はなかったが、次年度以降、討論会を独立したイベントとすることが予定されており、講演会としての魅力をより高めていく取り組みが必要と思われる。



討論会(poster session)の様子



優秀ポスター賞を受賞した吉川晃平さん(左)と井須紀文部会長